

## リレー随筆

### 鹿児島県肝属郡肝付町は一反木綿の伝承の地です！

鹿児島大学病院 研修医1年目 下園 航

あまりに唐突な表題で申し訳ございません。こちら、学会発表等で定番のTake home messageになります。私が今回の随筆で皆様にお伝えしたいことの9割がこのタイトルでありますので、もしこの冒頭の数行だけでも読んでいただけたらそれで十分でございます。是非、あのゲゲゲの鬼太郎でも有名な妖怪である一反木綿の発祥の地が肝付町であるということだけでも覚えていただければ、私がこのリレー随筆に参加させていただいた意味が大いにあるというものでございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

ご挨拶が遅れてしまい申し訳ありません。初めまして。リレー随筆を担当させていただきます、鹿児島大学病院研修医一年目の下園航と申します。こういった随筆というものは些か不慣れではございますが、これもよい経験の一つと思い、筆を執らせていただいた次第でございます。

折角の機会でありますので、肝付町の紹介をさせていただきたく存じます。といっても具体的な人口や広さ等のデータではなく、あくまで一住人として住んでいた主観を紹介させていただければと思います。

私、生まれも育ちもこの鹿児島県肝属郡肝付町ですが、肝付町を端的に表す一言があるとすれば“田舎”に他なりません。非常に典型的な田舎です。人口は少なく、高齢化率は高く、一次産業が専ら主流の自然の豊かな街でございます。私の実家を例にあげますと、半径1キロに牛小屋が3棟、豚小屋が1棟、その他を占める畑と田んぼが広がり、挙げ句には古墳群が1群あります。古墳単独ではありません。古墳群が、です。これを半径2キロに広げますと、なんと古墳群がもう1群増

えます。そんなレベルの田舎でございます。

余談ではありますが、肝付町には本土最南端の前方後円墳があります。大阪の大仙古墳でも有名な、あの前方後円墳が、です。私も一度その古墳を小学校のフィールドワークで訪れたことがございますが、見た目は完全にただの竹やぶでした。クラス一同の小首を傾げさせた本土最南端の前方後円墳。歴史に興味のある方は是非一度訪れてみてください。

この街において、あくまで私が個人的に推している2大ポイントこそが、一反木綿とロケットセンターでございます。ロケットセンターについては言わずもがな、と言いたいところなのですが、こちらの方も意外と知名度が低いというのが悩みどころ。日本に2つしかないロケット打ち上げ基地の内の1つだということにも関わらず、人に聞いてみれば名前が上がるのは種子島、種子島、種子島ばかり。私が大学時代友人とこの話をした際にも、「種子島しか知らなかったわ。え、はやぶさが打ち上がったの種子島じゃないの？」と言われる始末。違うんです。はやぶさ2は確かに種子島から打ち上げられましたが、1号機が打ち上げられたのは内之浦宇宙観測所なのです。この随筆で皆様に覚えていただきたいことの残りの1割がこの内之浦宇宙観測所についてでした。何卒、お見知りおきをよろしくお願い致します。

本題に入らせていただきたいと思います。今回、私がこのリレー随筆に参加させて頂くに当たり皆様に最も伝えたかった事こそが、“一反木綿”についてなのです。そもそも一反木綿という妖怪について皆様はどれほどご存知でしょうか？簡単に紹介させていただくと、長さはその名の通り1反（約10メートル）

の白い布のような姿で、夕暮れ時にひらひら現れて歩いている人の顔に巻きつき窒息させると言われている妖怪です。この一反木綿の伝承の地こそが、私の故郷である肝付町（旧高山町）なのであります。伝承については地元出身の教育者・野村伝四と民俗学者の柳田國男との共著「大隅肝属郡方言集」や、町の歴史をまとめた「旧高山町史」など古くから地元について書かれた本にあり、もっと一般的なところで申し上げますと、誰もが一度はお世話になったであろう天下のWikipediaでも、一反木綿で検索すればこの肝付町が伝承の地として紹介されています。

このユニークな見た目の妖怪である一反木綿の知名度向上に最も寄与したと言っても過言ではないのが、水木しげる氏原作のゲゲゲの鬼太郎でしょう。原作はもちろんのこと、アニメも何期にもわたり放送され、実写で映画にもなった世代を超えて知られる漫画です。その中に、準レギュラーと言っても差し支えないほどの頻度で一反木綿は登場します。活躍の内容としては、主に主人公の鬼太郎が遠距離移動する際の足としての働きがかなり主だったものになるかと思えます。鬼太郎の移動手段といえば、一反木綿かカラスの2択と言ってもいいのではないのでしょうか。ええ。移動手段でいいのです。大活躍じゃなくていいのです。主役を支える確かな立場を地元出身の妖怪が築いてくれている。それだけで十分なのです。

そんな一反木綿の伝承である肝付町において、個人的に最大の問題と考えているのが、町としてこの一反木綿という妖怪をもう少し推してくれてもいいのではないかということです。内之浦に宇宙観測所があると知らなかった友人も、一反木綿という妖怪のことは知っていました。全国的にもそれなりに有名であり、かつ独特なフォルムと生態を持つ一反木綿を、もっといろいろな場面で観光資源として推していくことは、決して町にとっても損にはならないのでは？ 具体的には、一反木綿クッキーとか作ってみてもいいのでは？ そんなことを考えたりもしてはみますが、悲しい

ことに現在肝付町で一反木綿にかかわるグッズなどを見かけたことは一度もありません。非常に残念です。郷里の歴史と風土を発信し、かつそれを観光として活かす切り口に、一反木綿以上にふさわしいものはないと考えている私といたしましては、今後肝付町長選挙で一反木綿に言及する候補者が現れれば、清き一票を投じることに何の躊躇いもないでしょう。

ここまで私の拙い文章にお付き合いいただき心より感謝申し上げます。表題にもありますとおり、この文章で私がお伝えしたかったことは「肝付町は一反木綿の伝承の地である」この一点につきます。ですが、このことを知っていてもおそらく皆さんの今後の人生のなかでお役に立つことはまずないでしょう。酒の席の肴としても話題が弱すぎます。「一反木綿って肝付が発祥なんだって」「へえ～・・・。」と言った具合に、3秒持たずその会話は終わるでしょう。ですが、それでも構いません。是非話してやってください。ちょっとした豆知識としてのお披露目でも大いに構いません。その数秒の積み重ねというものが、伝承となるのだと私は考えております。私の好きな町にはこんな妖怪がいるのだと、どうか広めてあげて下さい。そして、今度はあなたの出身の町についても調べてみて下さい。偶にでいいです。帰省したときのついでで大いに結構。案外、あなたの知らなかった町の思わぬ魅力を知ることができるかもしれません。そして、それを周りに是非広めていってください。

結びになりますが、今回はこのような機会をいただき誠にありがとうございました。お陰を持ちまして、我が故郷の魅力の一端を、皆様にお知らせできたと感じております。これから先ふとした瞬間に、皆様の記憶の片隅に、ひらひらと白い一反の布切れが舞っていることを願い、この随筆の締めとさせていただきます。長々とお付き合いいただき、心より感謝申しあげます。

次号は、鹿児島市協病院 堀部 碧先生のご執筆です。  
(編集委員会)